

東海大学福岡短期大学教育研究年報 2012 年度版 発刊にあたって

本学は、1966 年（昭和 41 年）に福岡県宗像市に開学した東海大学工学部（福岡教養部）の後を受け、1990 年（平成 2 年）4 月に開学しました。宗像市をはじめとする地域から要請のあった「情報化・国際化に対応できる人材の育成」を設立の目的とし、情報処理科と国際文化学科の 2 学科を有する短期大学として現在まで 4,000 人を超える卒業生を輩出しております。

しかし、開学以来、少子化や四年制大学、専門学校との競合といった短大への逆風が吹く中、本学においても、学生数の減少という厳しい現状に対応することを余儀なくされています。高等教育機関としての短期大学は、今後どのような教育を目指すべきかを今一度検証しながら、本学も様々な改革を進めている途上に今あると言えます。

ここ 10 年程の本学の取り組みを振り返ってみますと、2002 年以来、「学びの自由化と個別教育の推進」事業を掲げ、本事業は 2005～2006 年度に文部科学省の「現代 GP」に採択され、「e ラーニング」や「学生カルテ」、「リアルタイム授業評価」といった教育支援システムの開発と運用を実現しました。また、2008～2010 年度には、地域と連携し、模擬的就業実践を通して学生を社会人に育てる「地域活性型人材育成プログラム」が、新たに「教育 GP」に採択されました。さらに、2009～2011 年度には、本学を含む北部九州の 9 つの短大とともに「連携 GP：地域の人材育成に貢献する短期大学の役割と機能の強化のための戦略的短大連携事業」が採択され、「初年次・教養教育の共同開発」の主担当校として事業を推進し、同時にまた、地域への教育活動として、公開講座「学校法人東海大学エクステンションセンター福岡講座」の開催や宗像市の呼びかけのもとに、市内にある福岡教育大学、日本赤十字九州国際看護大学とともに「むなかた協働大学」への参加、その他、附属第五高校や福岡県内の近隣の高校との連携授業の開始といった活動を行ってまいりました。

本学は 2012 年度より、“「生きる」を考え、「働く」を学ぶ”を理念としたカリキュラムの刷新を行います。3 カ国語（英語・韓国語・中国語）、情報リテラシー、マネジメント基礎、コミュニケーション基礎の 4 つの基礎力を共通科目として土台に据え、その上にプロジェクト研究を中心とした専門教育と現代文明論を柱とする教養教育を置き、東アジアの将来を見据えての国際文化学科と ICT 教育の充実をめざす情報処理科とともに、東海大学の建学の精神と教育理念である文理融合によるバランスのとれた人間教育を目指してまいります。本教育年報が、本学の教育の実状を伝えますとともに、全国の短大教育の一助となれば幸いです。

2014 年 3 月

東海大学福岡短期大学
学長 神山 高行